

陳舜臣さんを語る会通信

NO.89

Nov. 2022

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2022年11月10日

未紹介作品が残る推理中短編集『崩れた直線』、『神獣の爪』 / 推理中短編一覧

本号では、中短編推理小説集『崩れた直線』と『神獣の爪』の収録作品のうち、紹介し残した作品を取り上げました。また、今まで扱った中短編推理小説140編の一覧表を添えていますのでご覧下さい。(編集委員 橘雄三)

題 初出	『崩れた直線』各編紹介
コロニスト 『週刊小説』 同54年1月5日号	●リチャード・ショーター：イギリス系の銀行に勤務。母は日本人だが、父は印欧中の血をひく。自称“コロニスト”。「不良外人」がぴったりのプレイボーイ。太平洋戦争が始まる少し前に英国籍から日本籍に。丹波春子：ショーターの彼女、愛人。「私」：作家、陳さんの分身。12歳の頃、父の使いで銀行へ書類を届けると、いつも、タイプを打っているショーターを見かけた。■ショーターは戦争が始まると上海へ渡り商売。朝鮮戦争の頃、ひょっこり神戸へ戻ってきて、五年ほどいたが、また、姿を見かけなくなってしまった。作中時間は1975年？「私」の職業意識と純粋な好奇心の両方から、丹波春子にショーターのその後を訊くことに
縞の絵筆 『別冊小説宝石』 同47年初夏特別号	連合赤軍事件(1971-72)の少し前、兵庫県の丹波路の山中で、暴力団塚本組のリンチが行われた。被害者の高田は塚本組のライバルの吉田組に、ひそかに内通していたことがバレて、組の裁判で死刑の宣告を受けたのだ。ストーリーは酸鼻を極めた殺人シーンから始まる。ところが、この場面を目撃した画家がいて、事件は思わぬ方向に展開する
奇行の墜落 『別冊小説新潮』 第108号(同52年)	作中時間は1977年。●山下巡堂：1910年生まれ。画家、まず一流。いつもベルトに落款に使う印章をぶらさげている。山下邦子：巡堂の娘。父の弟子、久保田新一とつき合っていたが父が反対。久保田新一：山下巡堂の弟子、破門される。「私」：知人の紹介で、山下巡堂の話し相手をするようになり、15年以上の付き合い。前原警部：兵庫県警勤務。警部補から警部に昇進。■山下巡堂がビルから転落死。事件か自殺か？
ミセス・ルーの幽霊 『問題小説』 同52年3月号	●ミセス・ルー：カナダ人。中国系英国人の富豪・廬啓夫人。1945年、戦後すぐ、35歳で未亡人となり、夫の遺産のうち、美術品コレクションとバンクーパーの邸を相続し美術商をはじめめる。そんな彼女が、鑑定家たちから、「腕を組ませる女」と呼ばれるように。彼女の扱う作品の真贋を腕を組んで考えこむという意味なのだ。「私」：陳さんの分身？■1970年、「私」はバンクーパーに、還暦を迎えたミセス・ルーを訪ね、回顧秘談を聞くことに。その話の中に、落第点男にベッドルームで幽霊を見せた話があった。「私」が、知人にその話をしたこと、それをヒントに一つの殺人事件が…
闇に連れ込め 『問題小説』 同47年7月号	●「おれ」：柴村一郎。新東明産業企画部第1課長。坂口国松：「おれ」の叔父。大学の理系の学部を出て財閥系の化学工業会社に勤め、当時、夜光塗料の権威と言われていた。父親の莫大な遺産の相続を機に退社、高利貸しをはじめめる。三崎登：坂口国松がむかし勤めていた会社の社長の息子。木下警部：重要な役割を演じる。■叔父・坂口国松が事務所死体となって発見され、「おれ」は疑いの一人に
火に追われて 『問題小説』 同48年7月号	●アーサー・クラスナー：日本名は倉砂朝一。日露戦争の頃に生まれた。3年間のイギリス暮らしを除き、日本生まれの日本育ち。父親は退役のイギリス海軍将校、母親は日本婦人。昭和初年に帰化。外人仲間でのニックネームは“ウォーキング・エスクワイア”(男性専科誌の表紙から抜け出てきたようないい男)。「私」：小説家。■ストーリーは、「私」が、アーサー・クラスナーに、「スリラーがいいです」と注文を付けて回顧談をせがむところから始まる。話は、二人の関係がレスビアンと思える魅力的な女性二人が絡む一つの殺人事件
細密秘画 『問題小説』 昭和51年4月号	この作品には殺人などの事件は発生しない。●中杉等：40歳を過ぎていて。製薬会社の研究所勤務。吉谷敬子：30歳。2年前に関西に来て、1年前から神戸の三宮でスナックをはじめた。中杉の情事の相手。離婚歴あり。中杉は、明るく、陰翳がなく、無邪気で、見事な女体をした敬子を童女・聖女と思っている。秋野民之助：K大学植物学研究室教授、既に故人。山中境次：K大学植物学研究室助教授。秋野教授から、教授が自らスケッチした20数枚の細密秘画を預かっている。その一枚から…
崩れた直線	初出は『小説宝石』昭和44年6月号。本通信No. 52で既に紹介



陳舜臣さん執筆 中・短編推理小説一覧 初出年月順(1)

	初出年月	題 名	収録中短編集	通信
1	S36.10	狂生員	わが集外集	60
2	S36.12	厨房夢	わが集外集	60
3	S36.12	回想死	わが集外集	60
4	S37.01	大南宮	方壺園	88
5	S37.01	獣心図	方壺園	88
6	S37.06	半月組	神戸わがふるさと	69
7	S37.06	くたびれた縄	枯草の根 ※	52
8	S37.07	方壺園	方壺園	53
9	S37.07	ひきずった縄	枯草の根 ※	52
10	S37.08	縄の繃帯	枯草の根 ※	52
11	S37.09	紅い蘭泉路	崑崙の河	83
12	S37.10	九雷溪	方壺園	14
13	S37.10	梨の花	方壺園	88
14	S37.10	アルバムより	方壺園	88
15	S37.11	さよならショー	神戸わがふるさと	69
16	S38.03	天山に消える	桃源遥かなり	74
17	S38.04	揺れる	桃源遥かなり	74
18	S38.08	七盤亭炎上	わが集外集	60
19	S38.10	燕の影	桃源遥かなり	74
20	S39.06	隣りはなにを	南十字星を埋めろ	84
21	S39.08	桃源遥かなり	桃源遥かなり	74
22	S39.08	香港便り	桃源遥かなり	74
23	S39.11	七十六号の男	紅蓮亭の狂女	74
24	S40.03	空中楼閣	紅蓮亭の狂女	74
25	S40.06	紅い蜘蛛の巣	崑崙の河	83
26	S40.09	南十字星を埋めろ	南十字星を埋めろ	84
27	S40.12	スマトラに沈む	紅蓮亭の狂女	74
28	S41.02	海の微笑	海の微笑	86
29	S41.04	太湖帰田石	青玉獅子香炉	88
30	S41.07	鉛色の顔	紅蓮亭の狂女	74
31	S41.07	神獣の爪	神獣の爪	89
32	S41.08	悪夢の果て	海の微笑	86
33	S42.01	ウルム子に消えた火	紅蓮亭の狂女	74
34	S42.01	壁に哭く	銘のない墓標	81
35	S42.02	揺るぎなき名声	南十字星を埋めろ	84
36	S42.04	カーブルへの道	青玉獅子香炉	88
37	S42.08	年輪のない木	青玉獅子香炉	88
38	S42夏	良心の限度	南十字星を埋めろ	84
39	S42.09	角笛を吹けど	紅蓮亭の狂女	74
40	S42.10	祖師廟にて	三本松伝説	71
41	S43.01	紅蓮亭の狂女	紅蓮亭の狂女	74
42	S43.01	骨を洗う女	六甲山心中	75
43	S43.02	知られざる幸運	南十字星を埋めろ	84
44	S43.04	レンズのない眼鏡	夜の歯車	82
45	S43.06	神に似た目	笑天の昇天	84
46	S43初夏	拾われた男	神戸わがふるさと	69
47	S43夏	夜の歯車	夜の歯車	82
48	S43.09	青玉獅子香炉	青玉獅子香炉	19
49	S43.09	狼の血	夜の歯車	82
50	S43.09	暗い海から	夜の歯車	82

※上の表、通し番号7、9、10の『枯草の根』は、
集英社文庫(2009)です。

	初出年月	題 名	収録中短編集	通信
51	S43.10	霧の鍵	神戸わがふるさと	69
52	S43.11	六甲山心中	六甲山心中	75
53	S43.11	秋の雁	南十字星を埋めろ	84
54	S44.01	小指を追う	青玉獅子香炉 19、88	
55	S44新春	残った石	神戸わがふるさと	69
56	S44.02	崑崙の河	崑崙の河	83
57	S44.02	まわれ独楽	神獣の爪	89
58	S44.03	神に許しを	幻の百花双瞳	75
59	S44.04	幻の百花双瞳	幻の百花双瞳	75
60	S44.04	ダーク・チェンジ	幻の百花双瞳	75
61	S44.05	フラワーロード・サンバ	幻の百花双瞳	75
62	S44.05	港がらす	幻の百花双瞳	75
63	S44.06	囚人の斧	異郷の檻のなか	82
64	S44.06	崩れた直線	崩れた直線	52
65	S44.06	遠矢浜心中	神戸わがふるさと	69
66	S44.07	銘のない墓標	銘のない墓標	81
67	S44.08	あんこエレジー	笑天の昇天	84
68	S44.09	にがい蜜	銘のない墓標	81
69	S44.09	染められた骨	六甲山心中	75
70	S44.09	青年と幻影	南十字星を埋めろ	84
71	S44.10	知らぬが仏	夜の歯車	82
72	S44.10	疑わしきは	南十字星を埋めろ	84
73	S44.12	笑天の昇天	笑天の昇天	84
74	S45.01	腐った紅葉	南十字星を埋めろ	84
75	S45.02	三角犯罪	六甲山心中/笑天の昇天	75
76	S45.03	幻の不動明王	六甲山心中	75
77	S45.03	果ての姿	笑天の昇天	84
78	S45.05	ダイヤモンド姫	なにも見えない	83
79	S45.06	鍾馗異聞	崑崙の河	83
80	S45.08	銀の弾丸	海の微笑	86
81	S45.09	永臨侍郎橋	異郷の檻のなか	82
82	S45.09	違った女	夜の歯車	82
83	S45.09	ぼくらは逃げた	六甲山心中	75
84	S45.10	異郷の檻のなか	異郷の檻のなか	82
85	S45.10	古印譚	笑天の昇天	84
86	S45.11	ヒマラヤ・クラブ	なにも見えない	83
87	S46.01	芙蓉の露	異郷の檻のなか	82
88	S46.02	欲望の交叉点	三本松伝説	71
89	S46.04	枇杷の木の下	崑崙の河	83
90	S46.05	なにも見えない	なにも見えない	83
91	S46夏	望洋の碑	なにも見えない	83
92	S46.08	旋風島綺譚	杭州菊花園	66
93	S46.09	獅子は死なず	わが集外集	60
94	S46.09	蟬が鳴く	なにも見えない	83
95	S46.09	追跡の報酬	なにも見えない	83
96	S46.09	あほだらお秋	南十字星を埋めろ	84
97	S46.12冬	割符	神獣の爪	89
98	S46.12	山のアパッチ	神戸わがふるさと	69
99	S47.01	白い檻	三本松伝説	71
100	S47.03	もう一人の	杭州菊花園	66

中・短編推理小説一覧 初出年月順(2)

	初出年月	題 名	収録中短編集	通信
101	S47.06	宝蘭と二人の男	杭州菊花園	66
102	S47夏	縞の絵筆	崩れた直線	89
103	S47.07	闇に連れ込め	崩れた直線	89
104	S48.01	西安四日記	わが集外集	60
105	S48.03	描きのこした絵	神獣の爪	89
106	S48.07	火に追われて	崩れた直線	89
107	S48.07	ひげ布袋	杭州菊花園	66
108	S50.01	惚れアンコ	三本松伝説	71
109	S50.03	杭州菊花園	杭州菊花園	66
110	S50.06	港育ち	三本松伝説	71
111	S51.01	夢と財宝	杭州菊花園	66
112	S51.04	細密秘画	崩れた直線	89
113	S51.05	気になる男	神戸わがふるさと	69
114	S52.03	ミセス・ルーの幽霊	崩れた直線	89
115	S52.09	老十三物語	三本松伝説	71
116	S52.10	奇行の墮落	崩れた直線	89
117	S52.12	三本松伝説	三本松伝説	71
118	S54.01	コロニスト	崩れた直線	89
119	S54.02	異人館周辺	異人館周辺	66
120	S56.03	クリコフの思い出	クリコフの思い出	86
121	S56.08	ある白昼夢	わが集外集	60
122	S56.02	涙無用	海の微笑	86
123	S57.01	四十二年目のクルバーン	杭州菊花園	66
124	S57.01	弓月城記	三本松伝説	71
125	S57.02	蜃気楼の日々	クリコフの思い出	86
126	S57.03	枯葉のダキメ	クリコフの思い出	86
127	S58.08	軌跡は消えず	神獣の爪	89
128	S58.10	四人目の香妃	クリコフの思い出	86
129	S58.10	その人にあらず	クリコフの思い出	86
130	S59.04	キッシング・カズン	クリコフの思い出	86
131	S59.05	王直の財宝	神獣の爪	89
132	S60.02	透明な席	クリコフの思い出	86
133	S60.11	覆面のひと	クリコフの思い出	86
134	S62.02	夾竹桃の咲く家	異人館周辺	66
135	S62.05	パンディット	異人館周辺	66
136	S62.08	崖門心中	異人館周辺	66
137	S63.07	蟹の眼	異人館周辺	66
138	平1.01	梅花拳	異人館周辺	66
139	平1.02	地天泰	異人館周辺	66
140	平1.07	秘閣の梅	異人館周辺	66
141	平1.12	金に換えず	異人館周辺	66
142	平5.03	六如居士譚	わが集外集	60
143	平6.05	梅福伝	わが集外集	60

《1. 陳舜臣執筆、推理小説の総数は約200編》

ここにあげた143編はすべて、中短編集に収録されたものです。中短編は通常、単独で、いろいろな紙誌に発表されたあと、中短編集に収録されて単行本化されます。しかし、そうならなかった作品も相当数あるようです。それを拾い集めることは至難ですが、陳舜臣年譜(『陳舜臣中国ライフ ラリー30』)からピックアップすると、30編近くになります。ということで、約170編というのが陳舜臣さんの中短編推理小説数ということになるでしょうか。

これに、推理小説の長篇22点と連作もの5点を加えると陳舜臣さんが執筆した推理小説の総数は約200編ということになります。

《2. 年間20本を超える中短編を執筆した昭和44年》

上掲一覧表、直木賞受賞の昭和44年には、20編の作品が並んでいます。陳舜臣年譜を見ると、更に、この一覧表に含まれない短編が数本あります。そしてこの年、長編推理小説『他人の鍵』を『別冊文藝春秋108号』に一挙掲載しています。すごい執筆量です。陳さん45歳、体力もありだったのでしょう。

《3. 中短編集の題名及び改題》

中短編集の題名のほとんどは、収録作品いずれかの題名をそのまま使っています。

そうでない場合もあります。二例挙げます。

上述下線の箇所のような、収録漏れの作品を集めたという意味で、『わが集外集』(2002 講談社)と題し刊行された例があります。

もう一つは『神戸わがふるさと』(2003 講談社)です。これはエッセイ集のような題名ですが、その通りです。三部構成で第一、三部がエッセイで第二部に小説9編が収録されています。分量的には四分の三が小説ですが。

次は題名の付け替え、改題です。

まずは、上述、『わが集外集』です。これは、2005年、同じ講談社から文庫化されたとき、収録作品から題名を取って『獅子は死なず』と改題されています。

もう一つ、『なにも見えない』(1971 講談社)です。この本は、1987年、徳間書店で文庫化されたとき、別の収録作品の題を取り『望洋の碑』と改題されています。

徳間
文庫
版表紙



講談社
文庫
版表紙



『神獣の爪』各編紹介

題 初出	『神獣の爪』各編紹介
神獣の爪 『小説現代』 同41年7月号	●西脇警部補：兵庫県警捜査二課の刑事。神戸北野町の文化住宅の一階で妻と二人暮らし。王仁銘：中国の江蘇省生まれ。早くに孤児となり、古墳盗掘団の親玉の叔父に育てられる。1940年、王が十歳の時、叔父は、日本から来た発掘隊の二人の男に古墳に閉じ込められ殺される。再び孤児となった王を日本軍の部隊長が日本に連れ帰り通学させる。華僑バイヤーの事務所に勤める、36歳。西脇警部補と同じ文化住宅の2階で妻と二人暮らし。王の妻真沙子：京町の北島ビルにオフィスを置く大昭物産に勤める。■北野町の古い洋館の主、松江雄太郎なる人物が惨殺されるという事件が起きる。松江の銀行の保管金庫から、宮原一郎名義の百五十万円の借用証が見つかる。題名は、宮原が所蔵する唐三彩の「神獣」の像からきている
まわれ独楽 『小説エース』 同44年2月号	●古賀省二郎：30歳になったばかり。神戸市東灘区のアパートに住む。勤めていた商事会社が大手に吸収合併されたのを機に退社、浪人中。国村多加志：古賀の叔父の友人。戦時中、塩井部隊長の副官であったことを光栄とし恩誼に思っ、今も献身的に尽くしている。古賀に、家出娘を探してほしいとの依頼を持ち込む。塩井悦三：職業軍人、家出娘の父親。15年前、妻を事故で亡くす。塩井真紗子：家出娘、29歳。家出して10年になる。塩井伸一：真紗子の弟。小さい頃、夜、幽霊を見たりうなされたりと、病弱。今も自宅の一室で療養。坂尾房子：塩井家の女中、50歳代後半。■満州事変の後期、揚子江下流のS市で、二名の日本人が殺害され、続いて、それに関連すると思える、一人の中国人が殺害される事件があった。これは日本軍の謀略で、現地で指揮したのが塩井中尉だった。この出来事がストーリーに重くのしかかる
割符 『別冊宝石』 同46年12月号	●塩崎：神戸港の仲仕になってまだ一年。相生町の古ぼけたアパートの一室をネグラにしている。母親が海岸で、車で曳く「関東煮き屋」をやっていたので子供のころから港にはなじんでいる。春ちゃんとは、子供の頃からの知り合い。春名：通称「春ちゃん」、60歳を越している老仲仕。文子：明石の工場に勤め、寮に入っている。塩崎とは幼馴染で男女の仲。■塩崎は、酒屋で立ち呑みした帰り、何者かに後頭部を撲られ気を失う。どうも、アメリカ船に仕事に行ったとき、外人の船員に貰ったポルノ雑誌が関係していそう…
描きのこした絵 『問題小説』 同48年3月号	●平賀勉造：父親が経営する貿易会社勤務。アマチュア研究家で、『近代日中交渉史』を出版するのが夢。丁延才：香港の「裕盛行」の若社長。子供の頃からアメリカに送られアメリカの大学を卒業した。絵描きになりたかったが、三年前、父の死亡で急遽、香港に戻り、家業を継いでいる。平賀の会社と取引が有り、それに、昨年来日、勉造とは気が合う。一つ違い。田玄伯：丁延才のアメリカ在留中の絵描き仲間。丁延才の持ち家をアトリエとしている。李杏：田玄伯の絵のモデル。■田玄伯がアトリエで、後頭部をピストルで撃たれて即死するという事件が起きる。しかも、偶然のことから、香港出張中の平賀が現場に居合わせ、事件に巻きこまれることに
軌跡は消えず	初出は『小説現代』昭和58年5月号。本通信No. 43及び52で既に紹介
王直の財宝	初出は『小説現代』昭和59年5月号。本通信No. 52で既に紹介

徳間書店版『神獣の爪』「あとがき」抜粋
傍線は編集委員の加筆

魯迅に『集外集』と題する著作がある。なにかの都合で文集にもれた文章を集めたものだった。

このところ、私の短篇は連作的なものが多く、それ以外のものは作品集からもれている。徳間書店の芦沢孝作氏たちに調べてもらい、何冊かにまとめてもらうことにした。これはすなわち私の『集外集』にほかならない。標題の『神獣の爪』は、ラジオ・ドラマになったこともあり、年鑑やアンソロジーにえらばれたりして、私はてっきり自分の短篇集に収められていたとばかりおもっていた。もれていたのは意外であった。

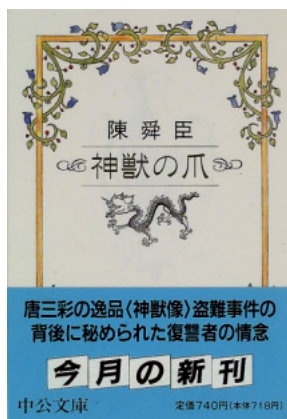
一九九二年二月十八日 陳舜臣

※二月十八日は陳舜臣さんの誕生日

■「神獣の爪」補足

右の傍線箇所、ラジオ・ドラマとあるが、一九八〇年十二月二十五日、ANB(テレビ朝日)のかつての略称で放映されている。

主な出演者は、関口宏、長門勇、大谷直子、西村晃、内田朝雄ほか。



中公文庫版表紙